

08

-北部-

むら お えつ ろう
村尾 悦郎編集者、ライター、デザイナー
一般社団法人長門市観光コンベンション協会 勤務

| 応募のきっかけは？

Uターンを意識し、東京の「ふるさと回帰支援センター」で仕事の情報を集めていたところ、「長門で協力隊を募集していますよ」と紹介されたことです。もともと長門出身で、大学進学とともに上京し、そのまま就職して暮らしていました。2016年に結婚し、働き方や子育てなどの将来を考えると、「山口に帰りたい」という気持ちが芽生え、Uターンを思い立ち、協力隊の仕事内容から「もう一度地元で馴染むための機会をいただける」ことに魅力を感じて応募しました。



隊員時代：ローカルメディアの取材



| どんな活動をしたいと思っていましたか？

「生まれ育った長門をもう一度知る」と同時に、卒業後の起業も視野に入れ、これまでのアニメーターやWebメディア運営で培った技術を活かした仕事の基盤を築きたいと思っていました。

| 着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

民間でずっと働いてきたので、「市役所の作法」とも言うべき仕事の流れ（企画の提案や進め方、予算など）が、最初の一年ぐらいはうまく飲み込めませんでした。

| 隊員時代の思い出を教えてください

「郷に入っては郷に従え」を実践し、その上で「自分のやりたいこと」を思いきりやることができました。具体的には、観光客や観光コンベンション協会から「元乃隅神社の案内ツールが欲しい」という話があり、自分の

「デザインスキルを活かしたい」という思いが一致し、「元乃隅神社マップ」を制作することができました。

| 困難な場面に遭遇したとき、どう乗り越えましたか？

いろんなケースがあると思いますが、活動の中で自分の企画が「ただのわがままになっていないか？」という問いかけが大切だと学びました。「自分がやりたいこと」ではなく、周りの人や地域に対し「どう役に立てるか」を考えるようになってからはスムーズに活動できました。

| 現在、そしてこれからについて

編集やデザイン、ライター、カメラマンなどをフリーで行いながら、長門市観光コンベンション協会のスタッフとしても働いています。東京時代は、「私の持つスキルは長門ではあまり役に立たない」と思っていたが、Uターンすると、自分の技術が直接相手に喜んでもらえる機会をより多くいただけました。今、本当に仕事が楽しく、そしてありがたく感じています。これからも頑張って、しっかり儲けて、楽しく暮らしていきたいと思っています。

| 協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

協力隊の活動は本当に多くの人との出会いやコミュニケーションの機会があると思います。その中で、「自分の立場を常に把握して振る舞う姿勢」が、より良い関係づくりや問題の解決につながると感じています。

むら お えつ ろう
村尾 悦郎さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 長門市
| 活動期間 | 2017年5月～2020年4月
| 活動内容 | 長門市の観光に関する情報発信や観光プロモーション映像の制作

▶ 現在の仕事

編集者、ライター、デザイナー
一般社団法人長門市観光コンベンション協会 勤務
| なびホームページ | <https://nanavi.jp/>
| ながとホームページ | <https://nagatoto.jp>



長門の魅力を「人」を通じて紹介するローカルメディア「ながとと」（フリーペーパー版）



村尾さんのあゆみ

2016.

● 結婚

2017.05

● 協力隊着任

2017.12

● 「元乃隅神社マップ」制作

2018.08

● ローカルメディア「ながとと」企画

2019.02

● Webサイト「ながとと」公開

2019.04

● フリーペーパー「ながとと」発行開始（1回/月）

2020.04

● 協力隊卒業